

# 03 令和3年度 学校評価(教職員)

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	年間	総合	年間の成果と課題
① 学校の組織的経営力の充実と向上	教務部	学校運営の円滑化	各分掌や学年と連携し、各種行事や業務等における要項の早期提示を行うことで、学校運営の円滑化を図る。	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。	教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」	3	3	B	①毎週の教務部会で業務分担等の確認を行ったが、要項等の提示が直前になってしまうものもあった。こまめな声掛けとスケジュールの確認を徹底し、余裕をもって提示できるようにする。 ②備品等の整備については、定期的に確認することができたので、今後も先生方の業務が円滑に行えるよう、継続していく。
				備品・消耗品・周辺機器の整備をする。	必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」 毎週の確認ができれば「4」	4	4		
	進路指導部	総合的な探究の時間の充実	キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な探究の時間の運営と内容の研究	キャリア教育を柱とした総合的な探究の時間の年間計画を立て、実施する。	学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」とする。また、生徒の状況を見て教員間で運営について話し合いながら円滑に実施できれば「4」	3	3	B	①予定通り実施できなかった。 ②今年度の活動報告をもとに来年度の「総合的な探究の時間」の指導計画を作成したい。
		今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。	活動内容を見直したことを反映させた本校の「総合的な探究の時間活動計画」を作成し、成果と課題を明らかにできれば「3」、また、反省をもとに3年間の実施計画を再考し、次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「4」	—	3				
保健部 / 相談	生徒の実態把握と支援や配慮等の確立	アンケート調査や面談を実施し、生徒の実態を把握する。また、支援や配慮の必要な	生徒の実態把握	生徒への悩み調査や面談を実施し、生徒の困り感を把握するとともに関係職員と情報共有する。アンケートを実施して生徒の実態把握ができれば「3」、それをもとにアンケートの改善ができれば「4」	3	3		①に関してはアンケートの実施目的および活用方法を教職員・生徒と共有して実施したい。 ②必要に応じて（保護者等も含めて）面談等	

		生徒が、充実した学校生活を送れる環境の確立とスキルアップに努める。	支援や配慮を必要とする生徒の面談と対応策の検討	生徒との面談を実施し、困り感の把握と対応策を関係職員と検討する。面談が実施できたら「3」、対応策の実践ができれば「4」	3	3	B	を行った。 ③特別支援Co.の森先生が主担当で、相談内容の共有を行った。
			SSWとの連携と活用を充実させる。	スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携して生徒の実態把握を行うとともに生活環境の改善と学校生活が充実できるよう支援する。SSWと連携できたら「3」、生活環境の改善ができれば「4」	3	3		
保健部 / 特別支援	特別支援教育の必要とする生徒の実態把握と支援体制の確立	特別支援教育を必要とする生徒の実態把握を実施するとともに支援体制の確立に努める。また、教職員の特別支援教育に対する理解と意識の向上を図る。	特別支援教育を必要とする生徒の実態把握	悩みや困り感のある生徒を学年会や職員会議等において把握・共有し、必要に応じて面談や支援を行う。生徒の実態を把握ができれば「3」、悩みのある生徒の対応ができれば「4」	3	3	B	今年度もSSW石橋先生に支援をしていただき、職員や生徒・保護者への適切なアドバイスを受けたが、改善できなかった。結果として、進路変更になったが、自分を見つめる時間になったと思う。大人しく自己表現が苦手な生徒ばかりなので、全職員で学校生活のあらゆる場面において観察し、早期発見と早期対応をお願いしたい。また、生徒の負担軽減を実現するための行事の見直しをする必要がある。
			特別支援を必要とする生徒の個別の教育支援計画作成	該当生徒と保護者の面談を実施し、支援が必要な項目を担当とともに検討し、個別の支援計画を作成するための面談ができれば「3」、支援計画を作成できれば「4」	-	-		
第3学年	学年の協力体制を確立して指導し、教師・生徒間の信頼関係を築きあげる。	学年全体による指導体制を構築し、一人ひとりを大切にする生徒指導と教育指導を推進する。	情報共有を密に行って、共通認識を持ち、一貫性のある指導を行う。	学年会を月に3回以上実施し、生徒や学年運営に関する情報を共有できれば「3」、かつ学年運営を円滑的に行うことができれば「4」	4	4	A	①定期的に学年会を実施し、行事関連、探究活動の進捗状況、生徒情報の共有を行うことができた。

				悩みや問題を抱えている生徒を早期に見し、学年全体で支援・指導を行う。	悩みや問題を抱える生徒については、学年団、管理職、相談部等学校全体で情報を共有し、学年団を中心に支援・指導を行う。この流れができていれば「3」、これに加え管理職、他学年にも共有し、学校全体での指導体制が構築できれば「4」	4	4		②体調不良や精神面で不安な生徒も出てきた。保健・教育相談部、関係する他学年の先生方の協力をいただき、支えてもらっている状況である。引き続き、情報共有を密に行い卒業を迎えたい。
② 多様な教育活動に対応した学校事務の推進	事務室	学校の窓口としての適切な対応	外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応	挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応ができれば「3」、より迅速かつ正確な対応ができれば「4」	4	4	A	①具体的方策については適切に実施できた。次年度以降も評価を下げないよう努力していきたい。
				職員室との連携と適切な対応	内部の接点として職員室との連携を意識した対応ができれば「3」、関係する業務等について、より共通理解を深められれば「4」	3	4		
				適切な情報の管理	外部・内部の接点としての事務室の情報管理が、適切に行われていれば「4」	4	4		
		適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理	規則等を遵守し適正で迅速な会計処理ができれば「4」	3	3	B	①会計処理については、予備監査において不適切な処理への指摘があっているため、次年度以降、より細かなチェックを心がけたい。
			予算の効果的執行	先生方、生徒の要望等にきちんと対応しながら、予算の効果的・効率的執行を達成できれば「4」	4	4	②必要な消耗品購入や修繕等については、概ね適切なタイミングで実施できた。次年度も早期及び効果的に予算を執行できるよう努めたい。		
		施設・設備の安全管理及び整備・充実	学校生活における生徒の活動・行動についての状況	校内巡視による実態把握	校内巡視による安全確認ができていれば「3」、不良箇所等について高額な箇所については県に予算要求を行う等、早急に対応できれば「4」	3	3		①施設等の不良箇所については、高額で予算要求中（生物化学実験室床・管理教室棟

			把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。	突発的な破損・故障への迅速な対応	直ちに現場を確認し、迅速に対応すれば「4」	4	4	B	軒裏剥離箇所)の箇所を除き、概ね対応できている。次年度以降も不良箇所を長期放置することがないように、順次対応していきたい。
				整備計画の策定。	長・短期的視点からの効果的な校舎等整備計画を策定できれば「4」	3	3		
③	教務部	学力の充実と向上を図る。	3年間を見通した教育活動と学力の充実を図る。	公開授業や研究授業を通して授業研究を深め、教師相互の研鑽を行う。	計画通りに研究授業や授業研究会を実施することができれば「3」、各研修への参加率が8割以上であれば「4」	—	4		①今年度の研究授業・授業研究会は計画的に実施することができた。 ②教育課程については、再来年度に向けて職員会議にて案の提示ができたが、検討事項がいくつかあるため、今年度のうちから検討していただく。
				進路目標や個人の適性に応じた教育課程の研究と検証を行う。	年間計画通り教育課程委員会を開催し、期限内に新学習指導要領に沿った教育課程を作成できれば「3」、さらに、次年度の教育課程作成の着手できれば「4」	3	4	A	
第1学年	学力の向上と進路指導の充実	基礎学力を身につけるとともに、面談・進路学習を充実させ、各個人が自分の進路目標を定め、主体的に動けるようになる。	家庭学習を習慣化させる。	家庭学習を習慣化させる。	平日120分以上、休日330分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を毎日行い、週平均学習時間合計が1260分以上の生徒が60%いれば「3」、80%いれば「4」	4	4		①週平均学習時間について、9月は1869分、10月は1337分、11月は1967分であった。個人で見ると、1260分を達成していないのは、10月時点の3名のみであり、他の月は全員達成できていた。 ②個人面談は、2学期中に各3回以上行い。三者面談は、12月に実施した。 ③進路に関する情報発信については、SHRなどでの発信に留まった。
				面談を充実させる。	個人面談を学期毎に1回、家庭訪問または三者面談を年間で2回実施する。予定通り実施すれば「3」、個人面談を学期毎に2回実施すれば「4」	4	4	B	
				進路選択に向けての意識啓発を行う。	SHRやLHR、学級通信などで、進路に関する情報を発信する。学期毎に3回実施できたら「3」、4回実施できたら「4」	3	3		

第2学年	個に応じた学力の充実と進路指導の徹底	自主的に学ぶ姿勢を確立させる学習指導を通して、各人の進路実現につなげる。	家庭学習の習慣化	1日180分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を行い、適宜声かけを行う。週学習時間合計が1260分以上の者70%以上いれば「3」、80%以上いれば「4」	3	3	B	<p>①7月100%、9月88%、10月63%、11・12月は50%が達成できた。西高祭や修学旅行などで学習との両立が図れていなかった。3年生になる前に、再度学習の計画や時間の確保を徹底させていきたい。</p> <p>②2学期は3回発行することができた。三者面談を通して家庭の様子を把握し、新たな情報提供をすることができた。</p> <p>③掲示物や私物は、日々声掛けを行うことで整理できている。今後は自主的に整理整頓できるようにしていきたい。</p>
			学習に対する意識啓発・家庭との情報共有	学級通信を毎学期発行し、進路関係の記事を載せて学習の意欲を高める。予定通り発行できたら「3」、さらに、各家庭の意見や状況把握ができたなら「4」	4	4		
			学習環境の整備	私物が整理整頓されていれば「3」、さらに掲示物がきれいに貼れていれば「4」	4	4		
第3学年	進路目標を明確にさせ、学力向上と学校生活の充実を図る。	個人面談を十分行い、生徒と対話しながら進路への認識を深めさせ、学校全体で生徒の進路実現を達成できるような指導体制を構築する。	個人面談を充実させ、適切な指導・助言を行う。	個人面談を各月に1回実施する。予定通り実施できれば「3」、自主的に進路情報を収集する態度を深める面談ができれば「4」	4	4	B	<p>①受験に向けて、時期に応じて十分面談を行うことができた。特にαコース生徒は推薦入試を受ける者は自己分析を熱心に行った。</p> <p>②生徒への受験指導について担任、学年団間で十分情報共有・役割分担を行うことができた。</p> <p>③学習時間はほとんどの生徒が目標を達成できた。学習時間に応じて力を伸ばせるよう、指導の工夫ができればと感じた。</p>
			面談で得た情報を学年や各教科で適宜共有し、個に応じた指導を行う。	面談の情報共有を学年会や志望校検討会で実施する。予定通り実施できれば「3」、面接、添削指導担当者を担任中心に割り振り、個々の生徒に十分な指導ができたと判断できれば「4」	4	4		
			進路指導部と連携し、学習指導や面接指導などに学年全体で取り組む。	1日180分以上の家庭学習時間を確保する。生活手帳の調査・点検を毎日行い、適宜声かけを行う。週平均学習時間合計が1260分以上の者が80%以上いれば「3」、90%以上いれば「4」	4	3		

国語科	学力向上の為に学習指導法の研究	進路実現の為に必要な学力向上の為に、効果的な学習指導法を行い、実践する。	授業計画について検討し、情報交換をする。	教科担当者間で情報交換を行い、学力面での課題を確認し、効果的な指導につなげる。月に2回以上実施できれば「3」、月に4回以上実施できれば「4」	3	3	B	①については、職員室内での会話で授業内容や進度の確認等を行った。
			授業参観をして意見交換を行うことで、指導力を向上させる。	授業参観を通して自身の授業実践に活かす。年に2回以上実施できれば「3」、年に3回以上実施できれば「4」	-	3		②は公開授業・研究授業ウィークスでの参観及び研究授業を行った。
			個に応じた指導を実践する。	生徒の志望・学力に応じた指導を行う。具体的な方策を2つ以上実施できれば「3」、具体的な方策を3つ以上実施できれば「4」	3	3		③は授業内での個別指導、休み時間や放課後の質問対応および学習アドバイス、3年生には受験先の出題傾向等を踏まえた指導を行った。
生徒の読書習慣の向上への取組の実施	読書推進活動の実施等を通して、生徒が自身の世界観を広げ、社会全般に関する教養を得るために必要な読書習慣を身につけさせることを目指す。	授業でブックトーク等を実施する。	各学年の授業においてブックトークやビブリオバトルといった読書への意欲向上、読書習慣の定着につながる実践を行う。学期に1回以上実施できれば「3」、学期に2回以上実施できれば「4」	-	3	B	①②に関しては、授業の中で関連する書籍の紹介を行ったり、自分の読書体験について考える時間を設けたりした。	
		朝読を活用した読書推進活動を実施する。	朝読で読む本のジャンルを指定する等、読書に対する視野を広げる活動を、朝読を活用して行う。年に2回以上実施できれば「3」、生徒へのアンケートで生徒の読書習慣が半分以上の生徒に見られれば「4」	-	3		③の小テストについては、すべてのクラスで授業開始時に実施し、週2回以上の頻度で語彙力向上の機会を作っている。	
		語彙力を養成する。	小テストを通して、読書をする上で必要な生徒の語彙力を向上させる。小テストを週1回以上実施できれば「3」、小テストを週2回以上実施できれば「4」	4	4			
地歴科	知識の定着と思考力の育成	歴史の展開を資料に基づき総合的に考察させ、歴史的思考力を育成するとともに、郷土	知識の定着をはかるため、課題の取組を徹底させる。	定期考査の訂正、長期休業等における課題の取組において課題の提出・合格90%以上で「3」、95%以上で「4」	4	3	①課題の提出は良好である。	

		を愛する心を養う。	思考力・表現力育成のための論述問題作成	定期考査において資料読解・論述問題を入れることができれば「3」、授業でも実施できれば「4」	4	4	B	③後期は近世から幕末にかけての長崎の役割（外交・蘭学）、長崎県の近代化遺産、原爆、中世における小値賀の役割、小値賀の捕鯨業とその推移について取り上げた。次年度はCOREハイスクール事業の導入がより進み、対応が必要になる。
			地域の伝統・文化に関する深い理解を養う。	小値賀・長崎県に関する事項を授業に3回以上取り上げることができれば「3」とする。5回以上できれば「4」	4	4		
公民科	知識の定着と公民的資質の育成	現代社会と人間について理解を深め、社会の基本的な問題・人間としてのあり方について考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	現代社会の問題に関するレポート・作文の作成	レポート・作文の課題を1回実施することができれば「3」、2回実施することができれば「4」	-	4	A	①冬季課題に20世紀初頭におきたスペイン風邪のパンデミックの原因とその影響に関するレポート課題を実施。授業において企業のSDGsへの取り組みをテーマにレポートを作成した。 ②格差と公共哲学（ロールズ・セン・サンデル）、医療技術の進化と課題、情報社会の特徴と課題について取り上げた。 ③平和教育は大学教授と連携をとり有意義な活動ができた。
			時事ニュースを主題にした授業を実施する。	各学期1回以上実施することができれば「3」、3回以上実施することができれば「4」	4	4		
			公民的資質を養うための外部人材の活用	主権者、平和教育、租税教室を実施できれば「3」、講師の先生と連携を十分行い、生徒にとって有意義な講演になったと判断できれば「4」	4	4		
NIE教育の推進	NIEの実践を行い、新聞を読むことに慣れ、現代社会について考えさせる。	新聞記事を読解する課題を実施	長期休業中の課題として新聞読解を主とした課題に取り組みさせる。（3β、2年生）予定通り全長期休業中に課すことができれば「3」、かつ生徒の取組が良好ならば「4」	3	4	A	①夏季・冬季課題で新聞読解の活動を実施。各自、記事について自分なりに考え、見識を深めている。 ②医療の進化（遺伝子医療、ターミナルケアの進展など）、情報社会の進展（AI、暗号資産、GAF Aなど）について適宜時事的なニュースを取り上げ、解説している。	
		新聞記事を利用した授業を行う。	適宜行う。各学期1回以上実施することができれば「3」、3回以上実施することができれば「4」	3	4			

数 学 科	基礎基本 の徹底お よび応用 力の育成	進路実現のた めに必要な学 力を身につけ る。	模試の有効利 用	1,2年対外模試において、全 国偏差値平均53以上、3年対 外模試において、全国偏差値 平均50以上が達成できれば 「3」、60以上の育成ができ れば「4」	4	2	C	①7月10月進研において、1年生は平均偏差 値49.9と49.5、偏差値60 以上1名。2年生は平 均偏差値53.5と56.5、偏 差値60以上1名。3年 生は平均偏差値53.4と 49.3、偏差値60以上1 名。上位者はいるが、 全体的な底上げが必要 な状況である。今後も 粘り強い指導をしてい きたい。 ②指導計画を立て、課 題や考査問題作成に取 り組むことができた。 模試問題も適宜取り組 ませることができた。
			長期的な視野 のもと年間計 画を立て、実 行する。	学力向上のための年間計画を たて、実行できれば「3」、 発展できれば「4」	4	4		
理 科	自主学習 力を育て る。	家庭学習の充 実を通して自 主学習力を育 てる。	就職試験や入 試問題を家庭 学習課題にし て、学習の動 機付けにす る。	8割の生徒が取り組んだら 「3」、全員取り組んだら 「4」	4	4	A	①1年生では来年度α に行く予定の生徒に対 して、模試の過去問を 週末課題にするなどし て、生徒の学習意欲向 上を図った。2年生で は11月から5教科受験 になり負担が増えるた め、早めに課題で過去 問に触れさせ、授業内 でも演習時間を多く確 保した。 ②生徒は日々の課題を 確実に取り組んでお り、家庭学習の習慣は ついている。さらに質 の向上を目指したい。
			生徒の実情に 合った課題を 配布し、家庭 学習の習慣を つける。	8割の生徒が取り組んだら 「3」、全員取り組んだら 「4」	3	4		
理 科	小中高一 貫教育の 内容の充 実を図 る。	小中高一貫教 育の内容の工 夫を図り、そ の成果を検証 し、改善に努 める。	研究授業 ウィークスの 充実に向け て、校種間で 連携して授業 計画を行う。	小中高の教員で事前の協議を 1回実施できれば「3」、2 回以上実施できれば「4」	-	4	A	①研究授業についての 打ち合わせは、7/30 (金)と9/22(水)の 合同会議時に行うこと ができ、それぞれの校 種の視点で指導案の検 討ができた。 ②研究授業は中3と高 1の合同授業を実施し た。今回は全体授業で



		小中高が連携した研究授業の実施	複数の校種での研究授業を実施できれば「3」、研究授業の研究協議も行うことができれば「4」	-	4	あったため、授業研究会ではいろいろな校種・教科の先生方の意見を共有することができた。今後に活かしたい。
授業の充実と学習指導法の工夫・改善により、生徒の創造的な思考力を育成する。	個に応じた指導によって基礎学力の定着を図る。また、授業を充実させることで、生徒の思考力を育成する。	生徒の実情に合わせた適切な課題を与え、基礎学力の定着を図る。	生徒の実情に合わせた課題を出し、その理解度が8割以上であれば「3」、理解度が9割以上であれば「4」	3	3	B ①課題については、前期同様生徒の理解状況に合わせ、レベルを変えたものを用意することができた。 ②生徒実験については2回実施することができた。次年度から年次進行ではじまる新学習指導要領では、実験を多く取り入れるよう記載されているため、今後も生徒の深い学びにつながるような生徒実験の実施ができるよう工夫していく。
		実験観察を積極的に行い、生徒の科学的思考力を育成する。	生徒実験を年2回行うことができたなら「3」、3回以上行うことができたなら「4」	-	3	
保健体育科 授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	集団行動を定着させ、各領域で意欲的な活動を行う。	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。学校生活で実践できれば「3」、学校外でも実践できれば「4」	3	3	B ①集団行動については、体育授業時だけでなく、日常生活（校外含む）においても周囲に気を配りながら、キビキビと行動できるようにしていきたい。 ②体育授業においては、生徒は主体的かつ協力して活動している。また、互いに教え合いながら活動するので雰囲気も良く、技能向上も見られる。満足感が高いと感じる。 ③小中高一貫教育のリーダーとして下級生を引っ張っていかうとする姿勢が見られる。しかし、コロナ禍で合同体育祭中止となり大変残念であった。
		生涯スポーツを見通した授業づくり	各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。実践できれば「3」、何らかの向上を80%以上の生徒が実感できれば「4」	4	4	
		中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。	中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。町へのアピールはどうか。成功へ導くことができれば「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	4	3	

	新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テストの実施と結果の活用	新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	①新体力テストの結果をうけ、各学期末に、腕立て伏せ、長座体前屈テストを実施し、体幹の強さやハムストリングスの柔軟性向上についてその変化を知り、各自の強化ポイントを発見した。 ②次年度は、新体力テストの結果から、各自でサーキットメニューを作成させようと思う。
			柔軟性の定期測定	長座体前屈測定又はストレッチテストを2ヶ月に一回実施する。計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	2	3		
			個々の状況に応じた体力の向上	体育授業時には、サーキット運動を継続して実施する。計画どおり実施したら「3」、達成感を80%以上の生徒が実感できれば「4」	3	4		
芸術科	基礎的な表現力の習得	音楽の基礎的な力をつけ表現力の向上を目指す。	表現力を高めるために個別指導を行う。	個別の実技指導が月に1回以上実施できれば「3」それ以上なら「4」	3	3	B	①実技指導をこまめに実施することにより、年度当初に比べると、どの生徒も表現力が豊かになった。 ②音感と読譜力の指導もスモールステップで実施することができたため、個人のレベルを引き上げ、表現力の向上に繋がったと思う。次年度も引き続き指導をしていく。
			表現力を高めるために基礎的な音感と読譜力を高める指導を行う。	1ヶ月に3回指導ができれば「3」、それ以上なら「4」	3	3		
	共同的な学びの実現	学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気・関係性を築く。	少人数・小集団での活動の実践	グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学びあう時間を年間で5回計画・実施できれば「3」、それ以上なら「4」	-	3	B	①グループをやることで、全員が同じように物事を捉え・考え・意見する場面が生まれ、学びが深まったと感じる。 ②「聴き合う場」を設定することで、演奏を更によくするアイデアや練習計画の立て方なども考えを広められるようになった。
			「聴き合う」場の設定	演奏発表の機会を設定し、それぞれが表現について考え・発表し合い、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」、それ以上なら「4」	3	3		

	生徒の主体的・創造的な音楽表現力の育成	生徒に芸術を身近に感じさせ、主体的・創造的な表現能力の育成を目指す。	様々な種類の音楽に触れる機会を設ける。	学期中に1回以上鑑賞の時間を設けられたら「3」、鑑賞の内容と表現活動と関連付けることができたら「4」	3	3	B	①鑑賞は実施できたが、表現活動と関連付けられない授業があったので、年間授業計画を立て直して確実に実施したい。 ②一人一台端末の導入により、今までより効率よく音楽の学習をすることができた。次年度は教育ソフトを活用した授業を展開したい。
			表現力を支える想像力を育むためにICT機器を活用する。	必修科目は月に1回以上実施できれば「3」、それ以上実施できれば「4」	3	3		
英語科	基礎学力の定着	英語に関する基本的な知識の習得	予習・復習の徹底	授業時に予習や復習の確認を行う。7割の生徒が予習や復習を行っていれば「3」、9割の生徒が予習や復習を行っていれば「4」	4	4	B	①ほとんどすべての生徒が予習を行い、授業に臨むことができた。 ②定期・実力考査や各種模試後の訂正にしっかりと取り組ませることができた。自主的に復習等に取り組ませて、自身の学力の向上に努める姿勢を育成していくことが今後の課題である。 ③基礎学力の向上に向けて、小テスト等に熱心に取り組むことができていた。
			各種テストのやり直しノート提出	確実に提出させる。9割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」、全員毎回確実に提出したら「4」	4	4		
			小テストへの取組	毎時間合格に向けて努力することで、基礎力をつける。合格する、または不合格でもやり直しを提出する生徒が9割を超えれば「3」、全員合格したら「4」	3	3		
	学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める。	授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。	生徒が英語を使って話す機会の増加	CAN-DOリストにある学年ごとの目標に照らし合わせて、全てのクラスで定期的にスピーキング活動(スピーチ、インタビュー、リテリングなど)を取り入れる。年間1回パフォーマンステストを実施できたら「3」、年間2回以上実施できたら「4」	-	3	B	①12月に全学年対象にインタビューテストを実施することができた。 ②ALTを中心としたスピーキング活動を設定し、授業中に積極的に英語で発言できる雰囲気を作り出すことができた。 ③7月・10月実施分の合格者は、3級4名、準2級1名、2級1名であった。
		ALTとのTTにより英語に触れあう機会を増やす。	TT授業を週に1回以上実施し、かつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」、2分の1以上あれば「4」	3	3			

			英語検定合格を目指す。	週課題や夏季補習などを利用して、英語検定1次試験対策を十分に行う。また、1次試験合格者に対して、昼休み等を利用して、個別に面接試験を行う。1人あたり2回以上練習を行うことができれば「3」、全員合格すれば「4」	-	3		英語検定合格を目標の一つとし、英語の学習に積極的に取り組む態度を育てていきたい。	
家庭科	家庭生活を営むために必要な能力を身につける。	生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	保育実習の実践	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「3」、感想や事後アンケート等から生徒の3分の2以上が保育への意欲・関心が高まったと判断できた場合は「4」	3	4	B	①保育実習については、こども園訪問の計画、リハーサルから本番まで実施し、保育についての新たな発見を多く得られていた。 ②調理、被服実習については、2学期、3学期実施に予定通り実施し、どちらも将来の家庭生活の基礎を身につけることができた。	
			実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実	自ら考えた作品を調理、被服ともに全員最後まで完成させることができれば「3」、その作品が全員5段階評価4以上であれば「4」	3	3			
			調理の工夫と実践	調理実習では年間5回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習が5回以上できれば「3」、調理実験も含めて7回以上できれば「4」	-	3			
④ 基本的な生活習慣の確立と	生徒指導部	基本的な生活習慣を身につけさせる。	集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動（服装）を推進する。	指導されなくても自ら整える雰囲気や姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で90%以上が合格なら「3」、95%以上が合格ならば「4」	3	2	C	①服装・頭髪については、特に1年生で不合格者が多くなっている。次年度は、身だしなみに気を配るよう指導していきたい。 ②毎月初めの挨拶運動については、生徒会役員が数回合同で実施できた。
			高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。	風紀委員会を中心に挨拶運動を実施。月に1回実施すれば「3」生徒会役員も合同で実施できれば「4」	4	4			

規範意識の高揚			時間の厳守	指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各授業・行事、5分前行動ができれば「3」、毎月の遅刻者数が全体の10%以下であれば「4」	4	4	③日常生活における生徒の行動については、キビキビと行動ができています。	
	交通マナーの遵守を徹底させる。	自転車乗車マナーの向上	自転車整備の徹底	整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が80%以上で「3」、95%以上が合格ならば「4」	3	3	B	①自転車点検は、学期に1回実施し、整備不良については改善するところまで確認できた。 ②自転車乗車マナーについては、長期休業前に全校生徒に対して実施（長期休業中の心得で担任指導）した。 ③駐輪場の使用は正しく行われている。駐輪場点検・整備は、次年度から2ヶ月に1回で構わないと思う。
			自転車乗車マナーを指導する。	夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」、定期的に下校時の確認ができれば「4」	3	3		
駐輪場の整理整頓			全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検・清掃が実施できれば「3」、定期的に保健美化委員が各クラスでの実施状況説明ができれば「4」	3	3			
保健部	生徒及び教職員の健康の保持増進	生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行う。	計画どおり実施できれば「3」、受診後、完治までの指導・支援ができれば「4」	2	3	B	①検診の結果、ほとんどの生徒が受診することが望ましいが時期の喪失などで受診できない生徒もいた。 ②保健だよりの作成も保健美化委員の協力もあり、月1回のペースで発行できた。
			健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行う。	毎月計画通りの情報提供を行なったら「3」、リアルタイムに必要な情報提供も出来れば「4」	3	3		
第1学年	基本的生活習慣を身につける。	基本的生活習慣を定着させ、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	校則に準ずる容儀を徹底させる。	年3回行われる服装頭髪検査において、平均80%の生徒が合格すれば「3」、平均90%の生徒が合格すれば「4」	2	2	C	①1学年の多くの女子生徒が前髪において適正でなかった。また、爪や眉毛についても、不適切なままの生徒も見受けられた。 ②全員が専門委員における副委員長または書記を務めた。 ③現在の出席率は97.8パーセントである。遅刻をする生徒が
		学校活動に積極的に関わる。	全員が専門委員となり、日常生活の係運営が滞りなく行われていれば「3」、専門委員会において、50%の生徒が副委員長か書記を経験すれば「4」	3	4			

			毎日登校する。	年間出席率が90%以上であれば「3」、95%であれば「4」	4	4	若干名おり、来年度は不注意による遅刻を無くしていきたい。	
学ぶ楽しさを経験し、教師・生徒間の信頼関係を築き上げる。	生徒自ら学ぶ姿勢を身につける環境を教員が作り、落ち着いたきのある誠実な学習・生活態度を確立させる。	教室の保全・環境美化を行う。	生徒が率先して清掃活動に参加すれば「3」、教員も生徒と共に清掃に参加し、学校環境の美化につとめれば「4」	4	4	B	①清掃活動への取り組みは前期同様に非常に良好である。生徒各々がやるべきことを自覚して動いている。 ②生徒の質問に対して、適切な対応を行っている。また、コース選択希望等を考慮した上で、各教科からのアドバイスをしていただいた。 ③NIEは予定通り実施できた。読書に関しては、生活手帳に読書時間を記入する決まりを作り、啓発活動を行った。	
		生徒の向学心にこたえる教員の姿勢を徹底する。	生徒の質問に丁寧に対応し、問題の解決につなげることができれば「3」、生徒一人一人に応じた学習方法の助言や課題の設定等ができれば「4」	3	4			
		NIE・朝読の実施を徹底する。	NIE活動を予定通り実施し、ブックトーク等の読書推進活動が学期毎に1回できれば「3」、読書推進活動が学期毎に2回できれば「4」	3	3			
第2学年	基本的な生活習慣を確立させ、中堅学年としての自覚を持たせる。	基本的な生活習慣を見直し、生活の質を高める。また、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自立の精神を養う。	自己管理能力の育成	出席率が90%以上あれば「3」、出席率が95%以上あれば「4」	4	3	C	①1学期の出席率95.9%、2学期の出席率90.6%であった。 ②西高祭実行委員や生徒会活動など、2学年が中心となって活動することができた。 ③挨拶は元気よく全員が行えたが、容儀検査で8人中2名が再検査となり、合格率は75%となった。日頃から学年団で観察・注意を徹底していきたい。
学校活動・行事への積極的な参加	各種委員会活動や西高祭・体育祭などへ積極的に参加するよう、SHR等で指導をする。全員が前期・後期の委員となり、かつ日常生活の係運営が滞りなく行うことができれば「3」、生徒が主体的・意欲的に活動していれば「4」	4	4					
挨拶の励行と徹底した容儀指導の実施	80%以上の生徒が自ら挨拶をし、かつ服装頭髪検査で90%以上の生徒が合格すれば「3」、95%以上の生徒が挨拶・容儀ともに合格であれば「4」	4	2					

第3学年	基本的生活習慣を確立させ、社会に適應できる人間を育成する。	基本的生活習慣を見直し、生活の質を高め、学校生活の諸活動に積極的に参加させ、協調性・自主自律の精神を養う。	自己管理能力の育成	生活手帳や長期休業、考査前の目標設定、学習時間管理について記録を徹底させる。この活動を行い、かつ出席率が90%以上あれば「3」、出席率が95%以上あれば「4」	4	4	A	①生活手帳の記録から振り返り、学習に役立てることができている。学習の振り返りによる自己分析も十分できるようになった。出席率は100%を維持できた。 ②挨拶・服装髪髪は良好である。受験に向けて身だしなみも意識して生活できた。 ③プリントの整理等で気になる者はいるが、机やその周囲・ロッカーは整理できている。
			挨拶の励行と徹底した容儀指導の実施	日常的な場面において教職員・生徒がお互いに自ら挨拶をし、服装髪髪検査で90%以上の生徒が合格すれば「3」、95%以上であれば「4」	4	4		
			落ち着いた学習環境の整備	日常的にロッカー、学習机周辺の整理整頓ができていると判断できれば「3」、これに加えて掲示物や情報冊子の整理ができていれば「4」	4	4		
⑤ 進路指導の充実	進路意識の向上・進路実現	将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施	専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施できれば「3」、さらに生徒の満足度が高ければ「4」	4	4	A	①進路講演会については、どの学年についても生徒の多く満足度が高かった。 ②進路検討会については、一人ひとりの生徒に対してきめ細やかな検討ができ、進路指導や受験指導に活用することができた。 ③今年度は7名の生徒がインターンシップに参加したが、生徒のキャリア意識を向上させる有意義な活動となった。
			進路検討会の実施	学年と協議して進路検討会・学力検討会を円滑に実施できれば「3」、また検討会の結果をもとに一人ひとりに適切な進路指導ができれば「4」	—	4		
			インターンシップの実施	インターンシップに参加させることで社会性や職業観を養うことができれば「3」、さらに生徒の満足度が高ければ「4」	—	4		
	学力の向上	計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	自主学習力を育てる。	家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。学習時間の記録において、1,2年平均180分、3年平均240分を50%の生徒が達成できれば「3」、また、70%の生徒が達成できれば「4」	4	4		①9～12月平均の学習時間目標達成人数は1年4名、2年5名、3年9名で全体で75%であった。今後は「学習の質の向上」や「重点科目」を意識した指導を行う必要がある。

			模擬試験・実力テストを有効に利用する。	模擬試験・実力テストを計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。1,2年1月対外模試において、偏差値平均50以上、58以上1名、3年2学期対外模試において偏差値平均46以上、56以上1名が達成できれば「3」、また1,2年1月対外模試において、偏差値平均54以上、60以上1名、3年2学期対外模試において、偏差値平均48以上、58以上1名が達成できれば「4」	3	3	B	②11月の対外試験では1年 $\alpha$ 希望者偏差値平均52.0、58以上1名。2年 $\alpha$ は偏差値平均54.4、58以上が2名。3年 $\alpha$ 偏差値平均49.3、56以上が2名であった。授業や課題内容を見直し、学力向上のために工夫が必要である。	
第2学年	自己認識を深めさせ、進路達成に向けての取組を充実させる。	進路指導や個別面談を充実させ、生徒個人の進路意識を高める。	個人面談の充実	個人面談を各学期に1回実施。予定通り実施できれば「3」、自主的に進路情報を収集する態度を深める面談ができれば「4」	3	3	B	①個人面談は三者面談前の進路希望確認や、模試成績について実施できた。全員ではないが、自分の進路についての情報収集を積極的に行う生徒も見られた。 ②総探の時間では、2月末の中間発表に向けて、1・2学期に調査した内容をまとめる作業に入っている。3年生の議会発表や宇久高校の発表を見学するなどして、意識を高めることができた。 ③生徒の情報交換を学年会に限らず朝会なども含めてこまめに行うことができた。	
			総合的な探究の時間の充実	総合的な探究の時間を通して進路意識を高め、将来小値賀にどのような形で貢献できるか考える。小値賀に貢献しようとする態度を養うことができれば「3」、コンクールに応募できれば「4」	3	3			
			情報共有の実施	月に3回学年会を行い、生徒情報の共有を行う。予定通り実施できれば「3」、予定以上実施できれば「4」	3	3			
⑥小中高一貫教育の充実	教務部	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める。	小中高一貫教育を推進し、学校の魅力化を図る。	小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。	毎月1度「小中高教務部会」を実施できれば「3」、さらに、高校の行事予定を1ヶ月前までに提示できれば「4」	4	3	B	①小中高の教務部会は毎月実施できたが、乗り入れの連絡ミスで先生方にご迷惑をおかけしてしまった。平時と異なる日課・時間割になるときは確認を徹底する。 ②オープンスクールについては、新型コロナウイルス感染症のため



			オープンスクールや入試説明会を実施する。	オープンスクールにおいて、中学生・教員・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」、さらに実施後のアンケートにおいて参加者の満足度が80%以上であれば「4」	—	—		に実施できなかったが、その分入試説明会時に生徒による学校紹介（動画）を中学生に見せ、高校のPRを行うことができた。
第3学年	最高学年としての自覚を持たせ、責任感とリーダーシップを高める。	学校のリーダーとして主体的に諸活動に関わる意識を高めるとともに、小中高一貫教育の最高学年として様々な行事のリーダーとなり、成功させる。	行事、部活動への参加を通して、他人を思いやった行動ができるよう指導する。	各種委員会、生徒会活動、体育祭などでリーダーとして下級生を思いやった関わりをするようSHR等で指導できれば「3」、教職員が十分それらを達成できたと判断できれば「4」	4	4	B	①体育祭が成果発表会となった。下級生を引っ張りリーダーとしての役割をしっかりと果たすことができた。 ②行事に向けて成功に向けて、各自役割を自覚し予定を立てて動くことができた。 ③受験指導が本格化する10月以降発行する余裕がなくなった。受験に向けて、学級全体・個人に適宜、声掛けを行うことはできた。
			与えられたものだけでなく、組織をよりよくするため考えながら仕事をする。	各活動では目標設定と振り返りを欠かさず行う。予定通り実施できれば「3」、振り返り等を教職員が見て、仕事に十分考えながらできていたと判断できれば「4」	4	4		
			進路や学校活動に対する意識啓発・家庭との情報共有を行う。	学級（学年）通信を毎月発行し、そこに進路に向けてのメッセージ、項目を必ず載せる。予定通り発行できたら「3」、増刊号含め14号まで発行できたら「4」	4	3		
地歴科	小中高一貫教育における社会科・地歴科の連携を深める。	公開授業・研究授業等を通じて、小学校・中学校・高校の実態を把握し、小中高一貫教育における社会科・地歴科のあり方について協議する。	公開授業・研究授業を実施し、授業研究を行う中で課題を見つける。	研究授業と授業研究を実施。予定通り実施できれば「3」、準備での連携、授業研究での意見交換が十分にできれば「4」	-	4	A	①「小値賀の捕鯨」をテーマに研究授業を実施。COREハイスクール事業の一環として小値賀歴史民俗資料館、吉岐・宇久・奈留高と連携する形で実施した。 ②前期に実施済。
			小中学校の社会科の授業を見学し、実態を把握する。	小・中学校の授業見学に1回以上行くことができれば「3」、2回以上できれば「4」	4	4		

	家庭科	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる。	保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理学習を行う。	調理実習のうち3分の2以上で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」、全ての調理実習で小値賀の食材を1種類以上使用できたら「4」	-	4		①調理実習は、2・3学期に実施し、専門教諭の指導を受け、楽しく安全に、効率の良い実習ができた。 ②魚おろし・郷土料理教室はコロナ禍で中止となってしまい、大変残念であった。
				地域との交流を通して、小値賀の食品を使った商品を開発する。	地域との連携を通して年に1つ以上小値賀の食品を使った商品を開発できたら「3」、さらに月1回以上地域との交流ができたなら「4」	-	-	A	
				郷土料理教室の実施	地場産物を用いて郷土料理を完成させることができたなら「3」、郷土料理教室後の事後アンケートで、3分の2以上の生徒が郷土に対する愛着を深めることができていたら「4」	-	-		
⑦その他	教務部	「アイランド・チャレンジ事業」の取組を推進する	広報活動の充実	「北松西高だより」の発行	年8回発行すれば「3」、毎月発行すれば「4」	4	4	A	①北松西高だよりについては、12月までに11回発行することができた。 ②ホームページについては、今年度151回更新(1/17時点)。アクセス数は今年度16,222回(1/17時点)。ホームページの更新回数の増加に伴い、アクセス数も増えてきているので、今後も学校での活動を発信していく。
				学校ホームページの定期的な更新	月3回更新すれば「3」、月5回以上更新すれば「4」	4	4		
	生徒指導部	学校、保護者、地域社会との連携	保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携	情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」、学校評価アンケートにおいて、No9【教師は、生徒をよく理解し適切に指導している】の項目評価が3.5以上であれば「4」	3	-		①今年度は、問題行動に対しての危機意識をよりもつこと、普段から一人一人の生徒の様子をしっかりと観察し、職員間の情報共有を密にすることなど課題があった。

			職員間の連携	問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」、解決することができれば「4」	4	2	C	②情報モラルについては、情報の授業との関連も考慮し、生徒指導からも指導する機会をもちたい。
			携帯電話・インターネット利用の危険性の啓発	携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」、複数回実施できれば「4」	3	4		
生徒の自治的活動の活性化 生徒会指導部	活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加	各行事で生徒が主体的に企画・運営に関われるよう生徒会の活動を支援できれば「3」、学校評価アンケートで、「学校行事に積極的に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.6以上ならば「4」	3	3	B	①昨年よりもさらに生徒数が少なくなり、各種行事の運営において、何とかやりくりしてきたが、かなり厳しい現状である。次年度に向けて、行事の在り方を工夫すべき時期である。 ②人数減を各委員会や各学年で工夫しながら補い、活動することができた。	
		各専門委員会活動の活性化	各委員会で努力目標を設定しそれを達成するため、各種専門委員会を予定どおり実施できれば「3」、問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養うことができれば「4」	3	3			
部活動の充実のための支援	体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動への全員加入。心身共に成長できるよう支援する。	全校生徒が部活動に所属すれば「3」、学校評価アンケートで、「部活動に意識を持って活発に取り組んでいる」と答えた全校生徒の評価平均点が3.8以上ならば「4」	3	3	B	①今年度も、各部活動が意欲的に活動を行うことができた。今後は少人数でも各部活動が当たり前前に活動を続けていけるようなサポートにあたりたい。 ②新転任職員も特に問題なく部活動運営に協力いただいた。次年度も生徒の部活動充実のため、部活動顧問会を活用したい。	
		部活動顧問会の開催	部活動運営について部活動顧問会を年一回開催すれば「3」、各部の活発な活動支援などのために臨時で顧問会を開催し論議・共通理解の場を設定できれば「4」	3	3			

保健部	施設・設備の健康・安全対策	生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検(校舎内外)、安全衛生点検(年3回)を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。	点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	①環境衛生検査は学校薬剤師松山様のご協力のもと実施し、問題ない状態である。安全点検も実施はできている。予算の都合等もあり、改修は難しい。 ②清掃は生徒数も少なくなっている分職員の頑張りで維持できている。
			掃除の徹底	清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3		
保健部 / 特別支援	小値賀町特別支援教育連携協議会実務者会の充実	連携協議会実務者会において小中学校と連携を取り、生徒の実態把握と対応策を検討する。	地区の連携協議会実務者会での情報共有と連携の充実	地区の連携協議会へ参加し、情報共有と特別支援教育に関する研修会の企画・運営に関わる。実務者会において情報共有ができれば「3」、研修会の運営に関われば「4」	4	-	B	今年度の連携協議会もコロナ感染拡大防止の影響を受けた。また、企画していた夏の合同研修会も中止となり残念であった。生徒はそれぞれ特性があるので、個に応じた対応をお願いしたい。
			特別支援教育の保護者への周知と理解を深める。	地区の連携協議会発行の特別支援教育だよりやパンフレットを発行し、生徒・保護者へ周知を図る。特別支援教育だよりの発行に関われば「3」、特別支援教育だよりを2回発行できれば「4」	3	3		